映像と語り「海の中から地球が見える」　武本　匡弘

#51、52　～　祝島のその後、そして今　～　ゲスト：山秋　真さん

上関原発予定地（冷却水放水口）前で潜る　2011 年3月 10 日（撮影：武本　匡弘）

2010 年12月から「NPOパパラギ海と自然の教室」の主催で、映画「祝の島」の上映会をパパラギ各店及び都内各地で半年間にわたり開催しました。原発建設予定地に面した「祝島」という小さな島で、海の危機に対して島民たちが体を張り海を守ろうと活動を続ける姿に心をうたれ、海に生きる者として何か行動を起こしたいと考えたからでした。上映会の開催期間中に東日本大震災が発生し、現地への復興支援なども行いながら、この上映会を継続させてきました。震災後の参加者は爆発的に増え、そこからまた自主上映の輪が広まっていきました。
あれから4年…そろそろ当時を振り返り、そして祝島のその後、現在を知ろう！
そんなテーマで恒例のイベント第51回目、52回目を開催します。

まさに「絵にも描けない美しさ！」と言える沖縄での初ダイビング！
あれから40年近い年月がたち、変わり果てた海の姿。
沖縄～祝島の海から今日まで“海が気付かせてくれる”ことについて。　（武本）

留学時代に偶然訪れたスリーマイル島での経験を経て、
原発の代理戦争に揺れた能登半島珠洲市で出会った人々。
そして、祝島に通い続け、取材を重ねている今についてのお話。
（山秋　真さん）

6月2日(火)　小金井市民交流センター（武蔵小金井駅南口正面）地下練習室 **18時40分開始**（18時開場）

6月6日(土)　藤沢名店ビル（藤沢駅南口隣接）6階　**14時開始**（13時半開場）　入場料：1,200円

武本　匡弘　プロダイバーとして、30年以上、国内外の海で潜り撮影、取材等を行ってきた。
2010年より一年間、上関原発建設予定地の海～祝島海域の海に潜り、四季の海の変化を撮り続けた。
奇しくも、潜水最終日が2011年3月11日だった。関東各地にて写真展、講演会などを開催。

PAPALAGI 海と自然の教室
NPO…特定非営利活動法人
第3回　朝日新聞社主催「朝日 海とのふれあい賞」受賞
第1回　マリンジャーナリスト会議主催「MJCマリン賞」受賞
第10回 コカ・コーラ環境教育財団主催「コカ・コーラ環境教育賞」受賞

お申込はNPOパパラギ海と自然の教室　TEL：0466－26－6101　または　090－7170－6761（武本）

主催：NPOパパラギ海と自然の教室　協賛：纐纈　あや（映画監督）・ポレポレタイムス社

震災後の祝島　　山秋　真さん（ノンフィクションライター）をお迎えして

＜原発のための漁業補償金にゆれる祝島と全国からの応援＞

原発建設に伴う漁業補償金を拒否し続けてきた祝島漁協が、 燃料代の高騰などで 2013 年度には約１千万円の赤字となり、組合員は一人当たり約 18 万円を肩代わりすることになりました。原発のための海の埋め立て工事が一時中断されていることや金銭面の事情などから、補償金を受け取っても構わない／仕方ないという声が一部の組合員からも上がるようになっていました。
この様な島の状況を知った有志たちが全国にカンパを呼びかけると、なんと一か月半で目標の 500 万を超える支援が寄せられ、２千万以上のカンパが集まりました。（報告内容は http://minnanoumi.jimdo.com/カンパお届け報告）

＜祝島からのメッセージ＞

「祝島の海ではなく、誰の海でもなく、みんなの海だから、守らないと」との思いで、原発建設のために海を売れと、カネをつんで迫られる立場にたたされながら、私たちは頑張ってきました。その思いをうけとめ、いつもたくさんの方々から応援していただき、たいへん感謝しています。

この１年以上ものあいだ、2012 年１０月に失効するはずだった上関原発のための埋め立て免許が失効しない中、とうの昔に断った上関原発の建設と運転にかかる漁業補償金の受けとりを祝島の漁師たちがいまだに執拗に強要され、新たな混乱を強いられています。高齢化した漁師たちは、それでも、海を守りたい一心で、年金をつぎこむようにして黙って苦境に耐えてきました。いま、それに応えるように「今度は自分たちが海を守る番」だと「みんなの海の会」さんが祝島を応援するためのカンパの呼びかけを始めるとうかがい、とても励まされると同時にありがたいです。
ともに「いのちの海」を守り受け継ぐために、力をあわせて頑張りましょう。

2014 年５月 30 日　　上関原発を建てさせない祝島島民の会 代表 清水敏保

（みんなの海の会HPから転載）

＜改めて漁業補償金受け取り拒否＞　（※中国新聞記事4月15日を読んで）

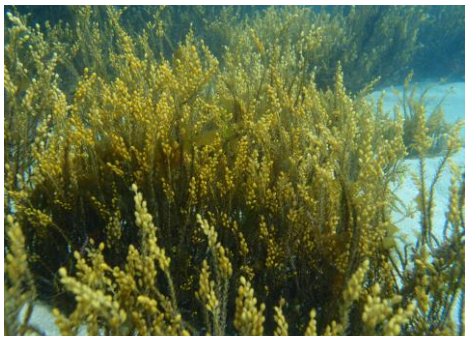
祝島の人たちが受け取りを拒み続けている上関原子力発電所の建設と運転に同意すると定めた契約に基づく、約 10 億８千万円の漁業補償金。これを、山口県漁業協同組合は勝手に仮受けし、受け取るよう県組合本店が祝島支店に迫っていました。しかし、祝島支店は改めて受け取り拒否を決議しました。
（詳細記事は、中国新聞ヒロシマメディアセンターオンライン　http://www.hiroshimapeacemedia.jp/?p=43167）
この記事を読み、安堵するとともに、今後も予断は許さない状況であることを感じています。(武本)

ゲスト　山秋　真（やまあき　しん）**さん**

神奈川県出身。ノンフィクションライター。
1992 年から石川県珠洲市へ通いはじめる。
1993 年、日本大学芸術学部卒業。以降、原発計画にゆれる珠洲と、計画に関連する裁判の傍聴に通う。
2003 年の計画凍結後、社会学者の上野千鶴子氏の東大大学院ゼミへ通う(05-09 年)。現在は、上関町祝島へ通い、取材を続けている。
著書に『ためされた地方自治―原発の代理戦争にゆれた能登半島・珠洲市民の 13 年』(桂書房)があり、同書で平和・協同ジャーナリスト基金荒井なみ子賞(2007 年)、松井やよりジャーナリスト賞を(2008 年)受賞。
近著に『原発をつくらせない人びと―祝島から未来へ』(岩波新書)。
ブログ「湘南ゆるガシ日和」更新中。

ためされた地方自治(桂書房)

原発をつくらせない人びと(岩波新書)


通常太平洋側ではほとんど見られないスギモクという海藻の群落が、祝島の対岸にある田ノ浦の原発予定地前の海岸で見られ、奇跡の海と呼ばれています。1年の内、限られた期間にしか見られない黄金に輝く姿は本当に美しい。　（撮影：武本　匡弘）